

# 富山県立山エリアにおける雪崩情報と安全啓発活動

○出川あずさ（日本雪崩ネットワーク）

## 1. はじめに

日本雪崩ネットワーク（JAN）は2014年11月下旬、富山県立山エリアでの雪崩情報を発表した。また同時に啓発チラシを作成し、山小屋やアウトドア・メーカーなどを通じて配布する雪崩安全対策を行った。これらの概略を報告する。

## 2. 背景

JANでは2012シーズンから長野県白馬エリアで北米と同一の標準化された雪崩情報を発表（出川、2014）しており、初滑りの地として混雑する立山での発表も以前より検討していた。また、室堂周辺では過去10年間で4件の雪崩死亡事故が起きており、JANの調査により、内3件が持続型弱層であることが判明している。さらに昨シーズンは、真砂岳での悲劇的な事故もあり、雪崩情報を発表するだけではない、より考慮された取り組みが必要とされていた。

## 3. 内容

### 3.1 雪崩情報

2014年11月16日から30日までの15日間、朝7時に雪崩情報の発表を行った。雪崩情報は5段階の危険度区分、留意すべき雪崩、雪崩発生状況・積雪・気象の概要、および行動への助言からなる。

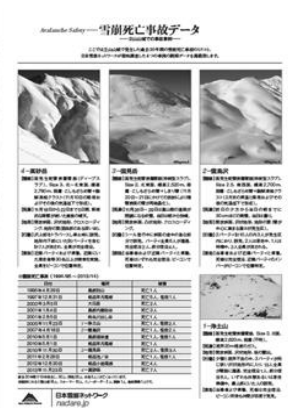
雪崩情報の発表にあたっては、JANが主催するプロ講習会である雪崩業務従事者 Level 1 あるいは国際資格である Level 2 を所持した会員が、積雪状態を「雪の掲示板」に投稿し、また、JAN 会員が勤務する山小屋に降雪版などの気象定点を設けて判断の材料とした。「雪の掲示板」には11月14日から29日までの16日間で59データが24名の会員によって投稿され、雪崩情報の作成に役立てられた。データ投稿を行った24名の内22名は、山岳ガイドあるいはスキーパトロールといった現場プロである。また、詳細な積雪断面観察を10回実施、内1回は雪崩破断面で行っている。

### 3.2 啓発チラシ

判型 A4 のカラーチラシを作成した。表面は「雪崩の危険を考える」と題し、積雪不安定性・安全な行動・雪崩救助の三項目における重要な点を列記、

裏面は「雪崩死亡事故データ」と題し、立山エリアにおける過去20年間の雪崩死亡事故リストと JAN が調査した4件の死亡事故の概略を掲載した。

啓発チラシは12,000枚印刷され、立山室堂地区の山小屋、プロショップ、アウトドアメーカー直営店、ガイド会社あるいは山岳会などに、まとまった数が配布され、ユーザー各自が入手できるようにした。また、PDF をウェブサイトに掲載し、Twitter や Facebook などを使って告知することで、より幅広い層への頒布を行った。



写真：啓発チラシ（左が表、右が裏）

## 4. 今冬の傾向と雪崩情報の閲覧

雪崩情報を発表した期間の立山は、まとまった降雪も少なく、雪崩危険度は Considerable が1日付いたのみで、概ね安定傾向にあった。懸念された持続型弱層も11月20日の放射による再結晶化が多少観察されたものの、現象自体が弱く、大きな問題とはならなかった。

一方で、少ない降雪といいながら、期間中にサイズ1-1.5の雪崩が20ほど観察報告されている。この内6割がスキークットなど人的な刺激で発生させた雪崩であり、フィールドで活動するガイドなどからの情報の集約が状況把握に極めて重要であった。

期間中のウェブのページビューは41,209（1日平均2,747）、ユーザー7,319を記録し、Facebookでは1日の平均リーチ（閲覧者数）は5,620であった。

### 参考文献

1) 出川あずさ、2014：日本雪崩ネットワークにおける雪崩情報発表への実践的アプローチ、雪氷、76、451-460。